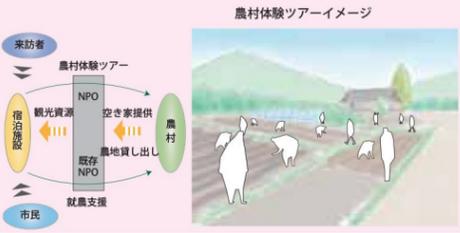


4-1 観光資源として位置づける農

信濃川周辺に点在しているホテル、旅館とウォーターシャトルを利用して、新潟の農村体験観光ツアーを計画する。NPOと観光企画団体が連携して、農業従事者から農業体験の場を借り、来訪者が農村へ行くようなツアーをつくり出す。



4-2 農を利用した食のブランド化

農村とホテルの店舗や旅館が野菜や米などについて直接契約し、来訪者にとってオープンなものとする。それによって食の安全性が保障される。また、舟運を使って野菜が流通することで、新鮮さが保障され、これらをPRすることでブランド化することができる。



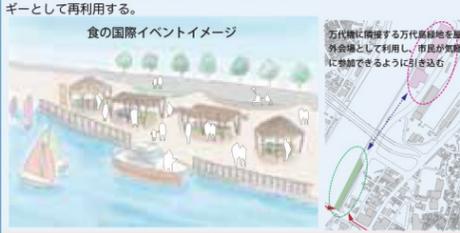
4-3 農、食、歴史を活かした観光まちづくり

堀割の再生とその景観整備を通して、屋形船等を用いた歴史散策路の整備を進める。また、堀沿いや河川沿いに新潟ブランドを発信するようなマルシェの出店や観光案内所を設置し、全国各地のアンテナショップ等と協力してPRする。また、企業CSR活動等農に関連する事業を行う企業を積極的に誘致し、農によるつながりを広げていく。



3-1 食でつながる「万代島緑地」

万代島緑地を食の国際見本市などの国際イベントの屋外会場として利用し、新潟ブランドの農作物・食品を国内外に対して発信する。現在、国際イベントは万代島の朱鷺メッセなどで開催されているが、市街に近い万代島緑地を屋外会場として活用することにより、市民がより気軽に参加できるようになる。また、仮設イベント施設は間伐材を利用し、イベント終了後はバイオマスプラントでエネルギーとして再利用する。



3-2 新潟の農を育成・発信する「新潟日報メディアシップ」

万代地区に建設される新潟日報メディアシップをプラットフォームに、教育と出会いの場の提供により新潟の農を発信していく。



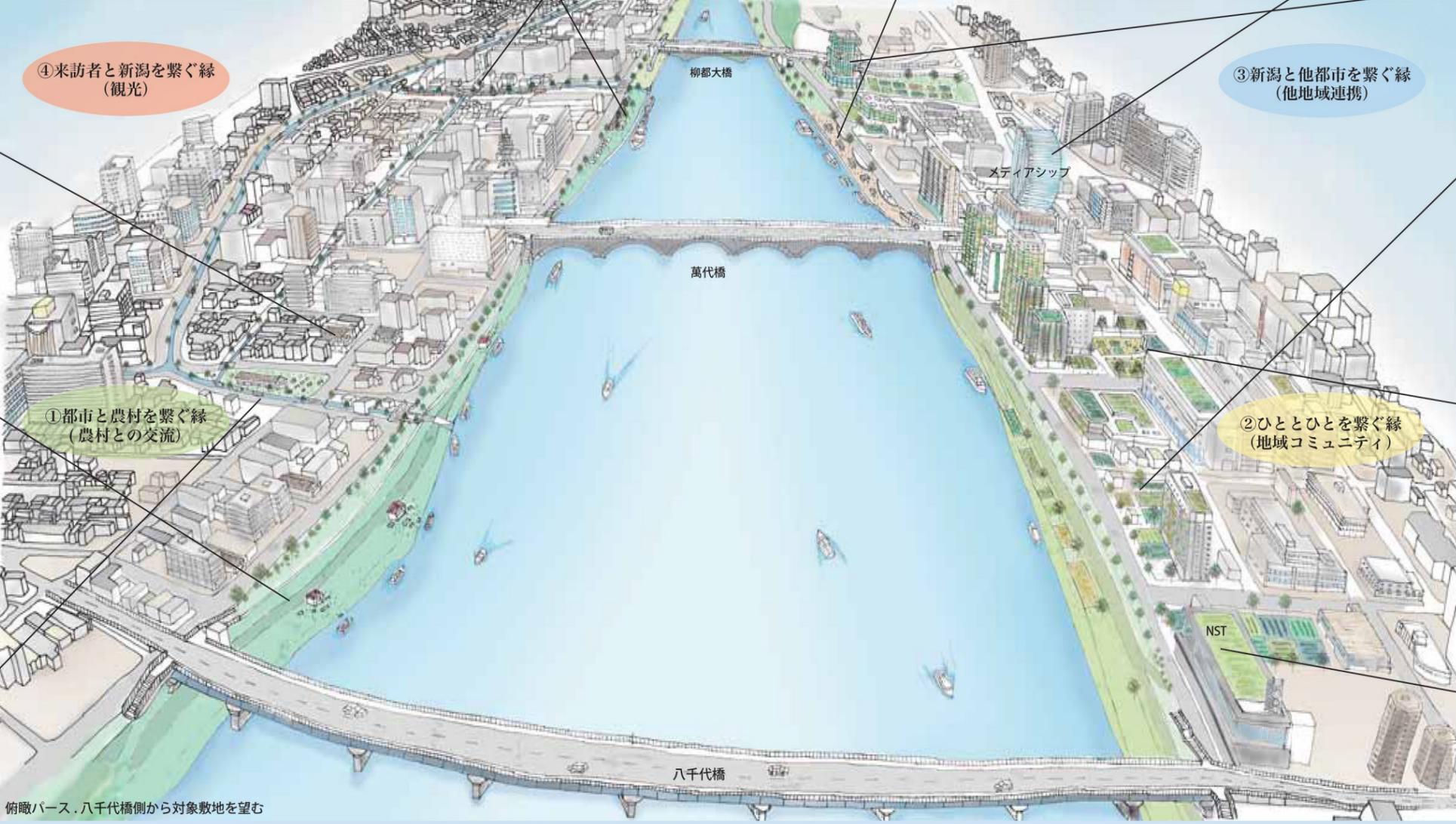
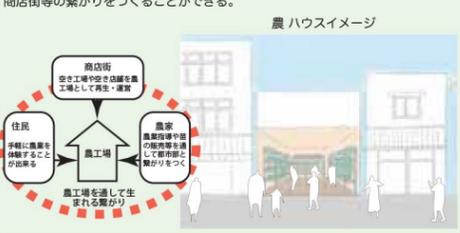
3-3 新しい農を創造する「万代島バイオファーム」

海外企業・研究所や他分野のノウハウや技術を取り入れ、バイオマス新しい農業技術を生み出す、実験農場・研究施設を整備する。



1-1 空店舗等を利用した農ハウスによる農村との交流

地元商店街等が、空き店舗や空き工場等を水耕栽培等の室内で出来る農業の場として再生し、運営する。都市部の人手軽に農業を体験することが出来る、また農村部でつくられた農作物も販売される場をつくる事で、都市部の住民と農家、商店街等の繋がりをつくる事が出来る。



④来訪者と新潟を繋ぐ緑 (観光)

①都市と農村を繋ぐ緑 (農村との交流)

③新潟と他都市を繋ぐ緑 (他地域連携)

②ひととひとを繋ぐ緑 (地域コミュニティ)

1-2 信濃川を介した農村との繋がりと湊の営みの復活

商店街や都市と農業者等の繋がりを基に設立した事業が主体となり河岸边に、船運の拠点を整備し、河の湊の営みを再生する。河岸には農家から直接運んだ野菜を売る市場を配置し、産地が明確で安全な農作物を船を使って運ぶ事で、船で運ばれた安全で安心な農作物としてブランド化する。ブランド化した野菜を商店街で売ること、地産地消へつながる。また、市場だけでなく農地と都市を行き来する為のシャトル乗り場を整備する。農に興味を持った人が、通勤農業を行うことや、農業体験、アグリツーリズム等が考えられる。



1-3 堀を介して町に広がる湊の営み

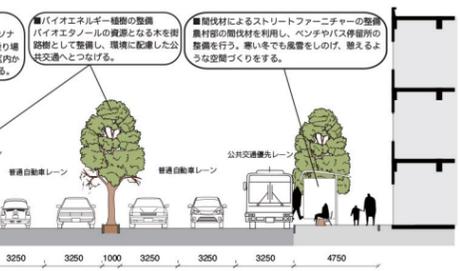
堀割の再生を行い、多門川公園及びポンプ場を掘割を利用した舟運の拠点として整備する。小さな市を堀に沿って町に点在させ、河の湊の営みが都市の中に面的に広がり、活性化していく。また、湊の機能が町に分散することで遠くまで買物に行けない高齢者も買物出来る場所とする。高齢者も商店街や農家との繋がりを持つ事が出来る。農業と商店街と住民の繋がりが街全体に広がることで、それぞれに相互依存の関係ができる。



⑤地域内を繋ぐ緑 (交通ネットワーク)

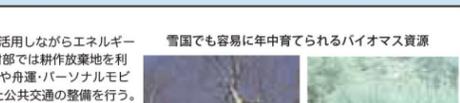
5-1. 都市軸の整備

既存のバス路線が集中する新潟駅から萬代橋を通り古町へ向かう通りを、公共交通の骨格となる都市軸として整備する。既存のバス路線を行かしながら、シェア型自転車や超小型自動車へのスイッチステーションの整備を行い、高齢者や観光客が自由に街区内部を移動できるように整備を進める。また、バイオマス資源もかねた植物(スイッチグラス・ハイブリッドポプラ)や間伐材を利用したストリートファニチャーを用いて、街路景観を整備する。



5-2. バイオエネルギーの導入

かつては、日本では珍しい産地地として栄えた新潟であるからこそ、農業という資源を活用しながらエネルギーの転換を行っていく必要がある。都市部では街路に植樹された街路樹や生ゴミを、農村部では耕作放棄地を利用した資源(北陸193号)や間伐材をバイオエタノールの資源として利用し、バスや舟運・パーソナルモビリティ(超小型自動車)等の公共交通のためのエネルギーとして利用し、環境に配慮した公共交通の整備を行う。



5-3. 公共交通ネットワークの構築

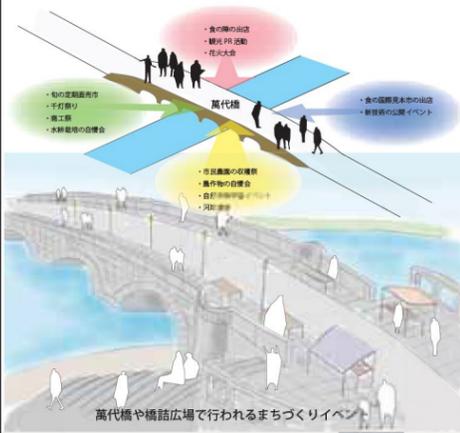
既存のバス路線は、新潟駅から萬代橋を通り古町へ向かう都市軸に集中しているが、通りからはなれた街区と繋がった公共交通機関の資格が無い。レンタサイクル等のシェア型のパーソナルモビリティや掘割を利用した舟運など複数の交通機関を乗り換える結節点を整備することで、町全体に公共交通をつくる。



■ 5つ『緑』から派生するまちづくり事業

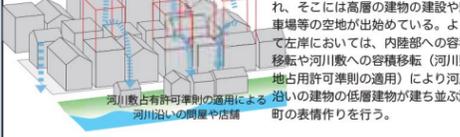
①まちづくりの舞台「萬代橋」

萬代橋は、現在河岸をまたぐように設置されており、河川沿いの都市軸と新潟駅から萬代橋を通る都市軸との空間的な繋がりが無い。萬代橋の右岸と左岸側の橋詰広場を河岸までのばし、河岸と橋詰広場の空間と階段をつなぐ2つの都市軸の結節点となるように整備する。2つの軸に空間的な繋がりを持たせ、祭りの時等に各エリアの催し物などが橋詰広場に集まるなど、新潟市の活気が集まる都市の中心として位置づけられるような空間とする。



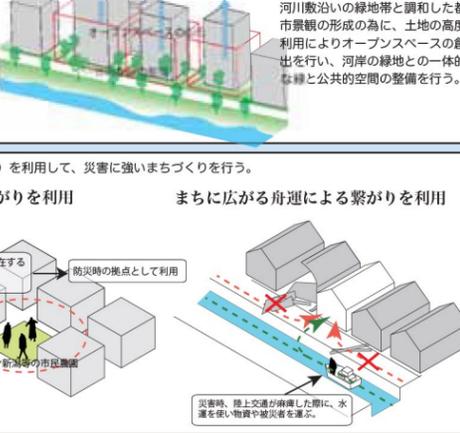
②河岸の景観整備方針

河岸の景観形成を行っていく際、対岸どうしの街並みの形成の歴史の違いから、コントラストのある対岸の景観を形成して行く。単純な高さ規制に留まらない、実現性のある景観形成を目指す。



③防災の備え

まちづくりの過程において醸成されてきた様々な緑(繋がり)を利用して、災害に強いまちづくりを行う。



俯瞰パース・八千代橋側から対象敷地を望む

(ハイブリッドポプラ) (スイッチグラス)